

# 放射光科学研究施設報告

## Status Report of the Photon Factory

村上洋一・高エネルギー加速器研究機構/物質構造科学研究所/放射光科学研究施設

### (1) PF の運営について

限られた予算・マンパワーの中で効率よく大学共同利用を行い、研究教育活動をより活発化させるために、放射光科学第一第二研究系のグループ体制を大幅に見直しました。今年度より、ビームラインの維持・管理等を行うビームライングループプレイヤー、PF 全体の基盤・安全技術および共同利用・広報の仕事を行うグループプレイヤー、新しい手法・検出器開発など将来光源での利用に向けて研究を進めるワーキンググループプレイヤー(WGL)という、3つのグループプレイヤー体制で運営を行ってきました。WGL は、時限付きで明確な目的を持ったもので、将来光源へ向けての準備という任務も合わせ持っています。現在は超高速ダイナミクス WG と先端検出器開発 WG の2つのグループだけですが、今後、コヒーレンスやナノビーム利用、X線非弾性散乱などを目指した WG が作られていくことを期待しています。

昨年度より引き続き、VSX 挿入光源ビームライン(BL-2, 13, 28)と、最後の短直線部ビームライン(BL-15)の整備を予定どおり進めてきました。これにより、強相関電子系/表面・界面系/表面化学/磁性材料などの研究が今後、格段に進展していくことを期待しています。

### (2) PF の将来計画について

放射光科学コミュニティの皆様から KEK 物構研 PF の将来計画に対して、数多くの叱咤激励の声を頂いております。KEK ロードマップの中の放射光科学の部分に対しては、数々の有益な御意見を頂きました。また、日本学術会議のマスタープランの公募に対して、放射光学会から「新しい時代の科学技術立国を支える放射光科学の高輝度光源計画」が提出されています。この計画は、高輝度放射光施設の早急な建設・運転開始を提案したもので、将来の展望として回折限界光源の実現を見据えた計画となっています。このようなユーザーコミュニティからのご意見に真摯に耳を傾けながら、KEK 物構研 PF が「日本全体の放射光科学の発展に対して先導的な役割を果たす」ことが出来るような将来計画を策定し、それを着実に実行していきます。本シンポジウムでも、PF 将来計画に関する議論を集中的に行っていきたいと考えていますので、どうぞ宜しくお願い致します。